

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: 1,2-ジクロロエタン

製品番号(SDS NO): 34090jis_E_J1-2

供給者情報詳細

供給者: 純正化学株式会社

住所: 埼玉県越谷市大間野町1-6

担当部署: 品質保証部

電話番号: 048-986-6161

FAX: 048-989-2787

e-mail address: shiyaku-t@junsei.co.jp

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体: 区分 2

健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分 4

急性毒性(吸入): 区分 3

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分 2B

発がん性: 区分 1B

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 1(中枢神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓、消化管)

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 1(神経系、肝臓、心血管系、甲状腺)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2(血液系、腎臓)

環境有害性

水生環境有害性(急性): 区分 3

(注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気

飲み込むと有害

吸入すると有毒(蒸気)

眼刺激

発がんのおそれ

臓器(中枢神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓、消化管)の障害

眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(神経系、肝臓、心血管系、甲状腺)の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(血液系、腎臓)の障害のおそれ

水生生物に有害

注意書き**安全対策**

- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 環境への放出を避けること。
- 熱/火花/裸火/高温などの着火源から遠ざけること。ー禁煙。
- 容器を密閉しておくこと。
- 容器を接地しアースをとること。
- 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- 蒸気を吸入しないこと。
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- 保護手袋及び保護面を着用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

- 火災に際しては指定された消火剤を使用する。
- 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
- 医師に連絡すること。
- 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。気分が悪いときは医師に連絡すること。

貯蔵

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
- 施錠して保管すること。

廃棄

- 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

物理的及び化学的危険性

- 非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

混合物/単一化学物質の選択:

化学物質

慣用名、別名: EDC

成分名: 1,2-ジクロロエタン

含有量(%): 99.0 <

化学式: C₂H₄Cl₂

化審法番号: 2-54

CAS No.: 107-06-2

MW: 98.96

ECNO: 203-458-1

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

- 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
- 医師に連絡すること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

(吸入もしくは飲み込んだ場合の症状)

咽頭痛、吐き気、嘔吐、咳、頭痛、めまい、嗜眠、意識喪失

※吸入すると、肺水腫を起こすことがある。

(皮膚に付着もしくは目に入った場合の症状)

発赤、痛み

医師に対する特別な注意事項

肺水腫の症状は、2~3時間経過してから現れる場合が多く、安静を保たないと悪化する。

その為、安静と経過観察が不可欠である。

5. 火災時の措置**消火剤****適切な消火剤**

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

消火を行う者への勧告**特有の消火方法**

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火を行う者の保護

防火服/防災服/耐火服を着用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置**

関係者以外は近づけない。

漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低20分間洗浄する。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。

漏洩物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。

二次災害の防止策

- 漏出物を回収すること。
- 危険でなければ漏れを止める。
- 全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)
- 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- 蒸気濃度を低下させるために発泡抑制剤を用いてもよい。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

- 蒸気を吸入してはならない。

(火災・爆発の防止)

- 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
- 容器を接地しアースをとること。
- 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 静電気放電に対する予防措置を講ずること。

局所排気、全体換気

- 排気/換気設備を設ける。

注意事項

- 皮膚に触れないようにする。
- 眼に入らないようにする。
- 蒸気を吸入しないこと。

安全取扱注意事項

- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- 保護手袋、保護衣又は保護面を着用すること。
- 保護手袋及び保護面を着用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。
- 取扱中は飲食、喫煙してはならない。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 涼しいところに置き、日光から遮断すること。
- 施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度

- 作業環境評価基準(1995) ≤ 10 ppm

許容濃度

- 日本産衛学会(1984) 10ppm; 40mg/m³
- ACGIH(1977) TWA: 10ppm (肝臓障害; 吐気)

OSHA-PEL

- TWA 50ppm; C 100ppm

ばく露防止

設備対策

- 適切な換気のある場所で取扱う。
- 洗眼設備を設ける。
- 手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。推奨材質:非浸透性もしくは耐化学品ゴム
手袋/個人保護具メーカーに適切な材料の選択について問合せる。

眼の保護具

側面シールド付安全メガネを着用する。
保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状:粘稠液体

色:無色透明

臭い:特有臭

pHデータなし

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点:83.5°C

融点/凝固点:-35.7°C

分解温度:300°C

引火点:(密閉式)13°C

自然発火温度:440°C

爆発特性:引火又は爆発範囲

下限:4.2vol %

上限:16vol %

蒸気圧:8.7 kPa (20°C)

相対蒸気密度(空気=1):3.42

20°Cでの蒸気/空気混合気体の相対密度(空気=1):1.2

比重/密度:1.251~1.261 g/ml(20°C)

粘度:0.829 mPas(20°C)

溶解度

水に対する溶解度:8.6g/liter(20°C)

溶媒に対する溶解度:エタノール及びジエチルエーテルに極めて溶けやすい

n-オクタノール/水分配係数:log Pow1.48

10. 安定性及び反応性**反応性**

重合暴走反応は生じない。

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

空気、水分及び光に暴露すると、暗色になる。

引火性が高い。

危険有害反応可能性

この蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがある;遠距離引火の可能性はある。

流動、攪拌などにより、静電気が発生することがある。

アルミニウム、アルカリ金属、アルカリアミド、アンモニア、塩基、強力な酸化剤と激しく反応する。

水の存在下で、多くの金属を侵す。プラスチックを侵す。

避けるべき条件

混蝕危険物質との接触。

裸火、加熱、火花、空気、湿気、光
混触危険物質
塩基、強酸化性物質、アルカリ金属、金属粉末、アンモニア
危険有害な分解生成物
炭素酸化物、塩化水素、ホスゲン

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

rat LD50=670 mg/kg (環境省リスク評価第2巻, 2003)

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

rabbit LD50=2800~4900 mg/kg (EHC 176, 1995)

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

vapor : rat LC50=1000 ppm/4hr (IARC 20, 1979)

労働基準法: 疾病化学物質

1,2-ジクロロエタン

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

[日本公表根拠データ]

ラビット: 軽度の刺激性 (SIDS, 2004; NITE初期リスク評価書, 2005)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

ラビット: 軽度の眼刺激性 (NITE初期リスク評価書, 2005)

感作性データなし

生殖細胞変異原性

復帰突然変異原性試験(エームス試験): 陽性(厚労省_変異原性試験結果)

発がん性

[日本公表根拠データ]

cat. 1B; Carc. 1B(ECHA SVHC Support Document,2011) et al.

IARC-Gr.2B: ヒトに対して発がん性があるかもしれない

ACGIH-A4(1977): ヒト発がん性因子として分類できない

日本産衛学会-2B: 人におそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分でない物質

EPA-グループB2: おそらくヒト発がん性(1986)

NTP-合理的にヒト発がん性であることが予測される

EU-発がん性カテゴリ1B; ヒトに対しておそらく発がん性がある物質

生殖毒性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

中枢神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓、消化管 (PATTY 6th, 2012)

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

麻酔作用 (PATTY 6th, 2012)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

神経系、肝臓、心血管系、甲状腺 (NITE初期リスク評価書, 2005)

[区分2]

[日本公表根拠データ]

血液系、腎臓（NITE初期リスク評価書, 2005）

吸引性呼吸器有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生生物に有害

水生毒性(急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

甲殻類(ブラインシュリンブ)LC50 = 12.8mg/L/48hr(環境省リスク評価第2巻, 2003)

水生毒性(長期間) 成分データ

[日本公表根拠データ]

藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)NOEC(r) = 55 mg/L/72hr(環境庁生態影響試験, 1995)

水溶解度

8.6g/L (20°C)(PhysProp Database)

残留性・分解性

急速分解性無し

[BOD分解度=0%/14 days; TOC分解度=1.6%/14 days; GC分解度=1.1%/14 days (通産省公報, 1978)]

生体蓄積性

log Pow=1.48 (ICSC, 2013)

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

番号 : 1184

品名(国連輸送名) : 二塩化エチレン

国連分類(輸送における危険有害性クラス) : 3

国連分類(輸送における危険有害性副次リスク) : 6.1

容器等級 : II

指針番号 : 131

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Y類)…1,2-ジクロロエタン

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則 特定化学物質 第2類 特別有機溶剤等

1,2-ジクロロエタン

有機則 25条第1項第1種有機溶剤

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

1,2-ジクロロエタン(別表第9の240)

名称通知危険/有害物
1,2-ジクロロエタン(別表第9の240)
別表第1 危険物(第1条、第6条、第15条関係)
危険物・引火性の物(0°C ≤ 引火点 < 30°C)
健康障害防止指針公表物質(法第28条第3項)
1,2-ジクロロエタン
化学物質管理促進(PRTR)法
第1種指定化学物質
1,2-ジクロロエタン(1-157)
消防法
第4類 引火性液体第1石油類非水溶性液体 危険等級 II(指定数量 200L)
化審法
優先評価化学物質
1,2-ジクロロエタン(政令番号11 人健康影響)
大気汚染防止法
有害大気汚染物質/優先取組(中環審第9次答申)
1,2-ジクロロエタン
船舶安全法
引火性液体類 分類3
航空法
引火性液体 分類3
廃棄物処理法
特別管理産業廃棄物:特定有害産業廃棄物
1,2-ジクロロエタン
土壌汚染対策法
第一種特定有害物質 揮発性有機化合物
1,2-ジクロロエタン
水質汚濁防止法
有害物質
1,2-ジクロロエタン
法令番号 13: C 0.04mg/liter

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN
Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)
2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)
2017 TLVs and BEIs. (ACGIH)
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>
JIS Z 7253 (2012年)
JIS Z 7252 (2014年)
2016 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)
Supplier's data/information
化学物質総合情報提供システム(CHRIP)(NITE) <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>
事業者向けGHS分類ガイダンス(平成25年度改訂版,経済産業省)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。
ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

1,2-ジクロロエタン,純正化学株式会社,34090jis_E_J1-2,2017/05/23

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 平成27年度)です。